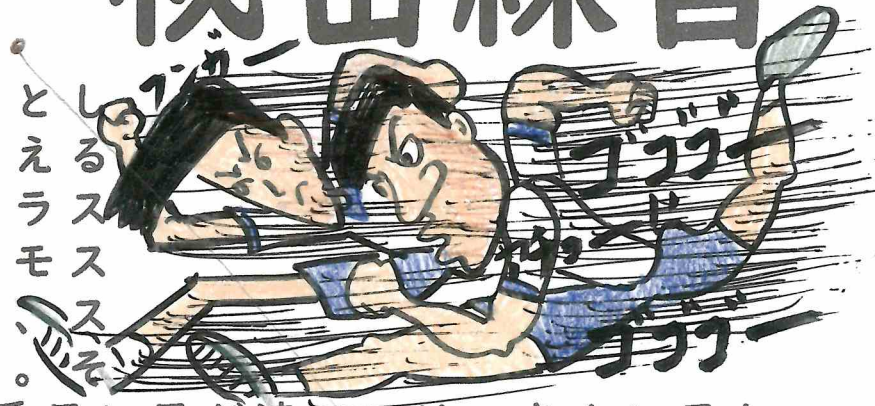


校長先生の初恋物語

第61話 秘密練習

とっくんは、学級委員として、勝つための方法を考えることにしました。このクラスで、足が速いのは、マンモス小学校全体でも一番速い、スポーツマンの足長君です。



してマンモス小学校で2番目に足が速いのは、きんに君なんです。陸上大会でも、この2人はマンモス小のスーパースターです。この2人は、リレーの最後になるのがいいとていあんしました。

あとは、2人ほどではなくても、まだまだ足が速い人はいます。女の子では、アマーラさんとダンプさん。ダンプさんは体重が重くて走り始めは普通でも、だんだん加速していくと、自分で止まることもできなくなってしまいうくらい速いんです。あとは、コージ君。サッカーをしていて、いつも体を鍛えているコージ君も、きたいできます。

足長君、きんに君、アマーラさん、ダンプさん、コージ君が、何番目に走るのがいいのか、その作戦を学級委員として考えました。

対する、心配な人達は、1人目はもちろん、きのか君。6年生の全クラスでも、あつとうてきにおそい人です。まだいます。いざという時、頼りになるちん君も、体が弱くて走りはダメです。そしてとっくんだって、体が小さくて、足が短くて、みんなの足を引っ張っています。でも、1番の問題はあの人。あの人のがんばってくれたら、もしかしたら、ビリにはならないかもしれないのです。

あの人というのは、ジャイアンのことです。ジャイアン

は、5年生の時からずっとそうですが、リレー大会で本気で走ろうとしてくれません。見ていて分かります。やる気が全く感じられません。みんながいくら「本気で走って。」とお願いしてもだめです。とっくんはうすうす分かっていました。本気で走らないのも、きのか君のためです。きのか君1人が、みんななら責められないように、きっとジャイアンはわざと遅く走っているんです。

でも、7月のリレーは、それでは困るんです。ジャイアンが本気で走ってくれたら、希望が見えてきます。ジャイアンを説得するのが、学級委員としての仕事だと思いました。だから、ジャイアンに言いました。

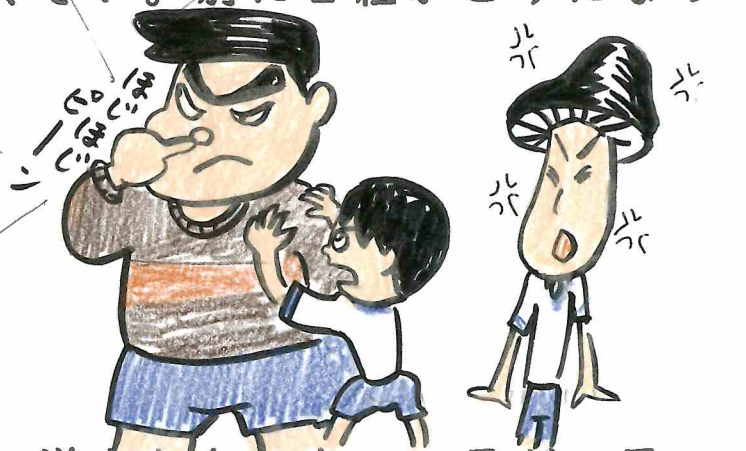
「ジャイアン、きのか君のためにも、次のリレーは勝ちたいんだ。足が遅いぼくたちは、秘密練習をしようと思っている。きのか君も来るんだ。ジャイアンも来てほしい。」ところがジャイアンは相変わらずです。

「やだよ。そんなのめんどくさい。別に2組がビリになっただって、かまわないよ。」

きのか君もいっしょに、ジャイアンに頼みました。「ジャイアン、ぼくはどうしてもみんなで勝ちたいんだ。ジャイアンも、いっしょに練習しようよ。」

いつもは絶対にジャイアンに逆らわないきのか君が、思い切って言ってるんです。でもジャイアンは、

「やめとけ。どうせ無理だって。いくぞ、きのか。」そう言って、いつものように、きのか君を無理矢理つれていこうとしました。すると、きのか君が、初めてジャイアンに逆らったのです。



次回予告

きのか君のおもいよ
ジャイアンに届け



-2- ジャイアンがとぼした
4つの はなくそをさがせ !!

校長先生の初恋物語

第62話 きのか君の思いよ ジャイアンに届け

きのか君は、ジャイアンの手を振り払いました。そんなの見たことはありません。いつもは、ジャイアンの言うがままのきのか君なんです。ジャイアンは、びっくりしていました。



きのか君が言いました。「ジャイアンにはかんしゃしてるよ。なんだかんだ言って、いつもぼくを守ってくれてる。リレーだって、ぼく1人の責任にならないように、本気出してないんでしょ。そんなのもういいよ。ぼくを守らなくてもいいよ。ジャイアンは、本当は走るのが速いでしょ。だったら、本気で走ってよ。一緒に勝とうって思ってよ。一緒に、秘密練習しようよ。」ジャイアンは、きのか君の迫力にたじたじになっていました。いつもだったら、自分に逆らったりしないきのか君に、びっくりしていました。そして、びっくりした顔のまま、一人で、どこかに行ってしまうました。

とっくんは、きのか君のその言葉に感激しました。

「きのか君、すごいよ。よく言ったね。」言ったあとのきのか君は、いつもの弱々して感じてでしたが、とっくんはきのか君の本当の姿を見た気がしました。

「きっと、秘密練習に、ジャイアンも来てくれるさ。」

朝の秘密練習が始まりました。メンバーは、とっくん、きのか君、ちん君です。朝の6時30分にマンモス小学校に



集まって、運動場を走りました。ジャイアンは、来てくれませんでした。きのか君のおもいが、届かなかったみたいです。それは仕方ないことです。集まった3人で、毎日毎日走り続けました。

3人が走っているといううわさが、クラスみんなに広がっていききました。すると、その秘密練習の仲間がだんだん増えていきました。



アマーラさんが来ました。ダンプさんが来ました。よしこさんも来ました。コージ君も来ました。他の友達も、いつの間にかとっくんたちと走っていました。

一番最後の方に来たのは、きんに君と足長君でした。2人は、おこっていました。

「どうしてぼくたちにはないしよで、やってるんだ。さみしいだろ。」

ちゃんととっくんが説明しました。いつもリレー大会では活躍してくれる2人には、秘密にしたかったんだと。2人に対して、恩返しの意味もあるんだと。2人はすぐに納得し、そして一緒に練習するのかと思ったら、そうではなくて、2人が走り方の鬼コーチになりました。ちんたら走っていると、2人がおこります。

「こらー。とっくん。ちんたら走るなー。」

「こらー。ダンプー。もっとやせろー。」

と、普段ダンプさんに言えないようなことまで言っていました。秘密練習は続きました。ジャイアンだけが、一度も練習には来ませんでした。それ以外のみんなは、毎日練習をしました。そしてついに、7月のリレー大会の日になりました。6年2組、ミッタのクラスに、すごい奇跡がやってきます。



つづく

次回予告 7月のリレー大会

どいかに、かたつむりが5ひきいるよさがいてね。